

3 5つの基本目標の位置付けを変更

5つの基本目標のうち、人口の増加をさらに加速させる観点から、「だれもが安心して住みたくなる総社」を大きな柱として設定。「だれもが安心して働き・学び・集いitくなる総社」は、柱に含まれる目標に位置付けました。また、市の交流人口を増やすため、「だれもが安心して訪れitくなる総社」にも引き続き力を入れて取り組みます。

だれもが安心して住みたくなる総社

だれもが安心して働きたくなる総社

だれもが安心して学びitくなる総社

だれもが安心して集itくなる総社



だれもが安心して訪れitくなる総社

後期基本計画の主な目標

令和3年度から7年度までの5年間の重点的な施策と目標を定めた後期基本計画を3月に策定。主な項目ごとの目標値を下表のとおり設定しました。

また、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は総社市の目指す方向と重なると考え、各施策がSDGsの17の目標のうち、どの目標に関連しているかを整理し総合計画との関連性を明確にしました。各施策を実施することで、持続可能な社会の実現も推進していきます。SDGsの各目標にどの分野の施策が関連するかは、市ホームページでご確認ください。

SDGsとは？

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015年9月に国連サミットで採択された国際目標です。2030年までに持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、17分野の目標が設定されています。

5つの目標	主な分野	主な項目	現況値	現況値の時点	令和7年度目標値
①だれもが安心して住みたくなる総社	子育て	子育てしやすいと感じている人の割合(市民満足度調査)	60.5%	令和2年度	80%
	健康・医療	“歩得”健康商品券参加者数(年間)	3287人	令和元年度	5000人
	ひきこもり支援	ひきこもりからの社会参加者数(累計)	38人	令和元年度	115人
	住宅・都市基盤・公共交通など	県立大学生の総社市居住率(年間)	49%	令和2年度	55%
	移住・定住促進	移住相談などの施策により移住した件数(定住祝い金対象・累計)	40件	令和元年度	80件
	防災・減災・消防	防災啓発事業の実施(年間)	41回	令和元年度	50回
②だれもが安心して働きたくなる総社	雇用	障がい者千五百人雇用事業における雇用者数(累計)	1076人	令和元年度	1500人
	農林業	新規就農者数(累計)	26人	令和元年度	52人
③だれもが安心して学びitくなる総社	学校・幼児教育	総社市に愛着を感じている中学生の割合(市民アンケート)	48%	令和元年度	50%以上
	学校・幼児教育	不登校出現率(小学校)	0.67%	令和元年度	0.5%以下
	学校・幼児教育	不登校出現率(中学校)	2.33%	令和元年度	1.6%以下
	スポーツ・文化・生涯学習	体育施設の利用者数(年間)	52万5031人	令和元年度	60万人
④だれもが安心して集itくなる総社	市民参加	総社市に愛着を感じている人の割合(市民満足度調査)	81.2%	令和2年度	85%以上
	市民参加	市民提案型事業への応募件数(年間)	13件	令和2年度	25件
	魅力発信	ふるさと納税寄付額(年間)	約5億円	令和元年度	約10億円
⑤だれもが安心して訪れitくなる総社	観光	観光客数(年間)	79万3000人	令和元年度	100万人

第2次総社市総合計画 基本構想を変更・後期基本計画を策定

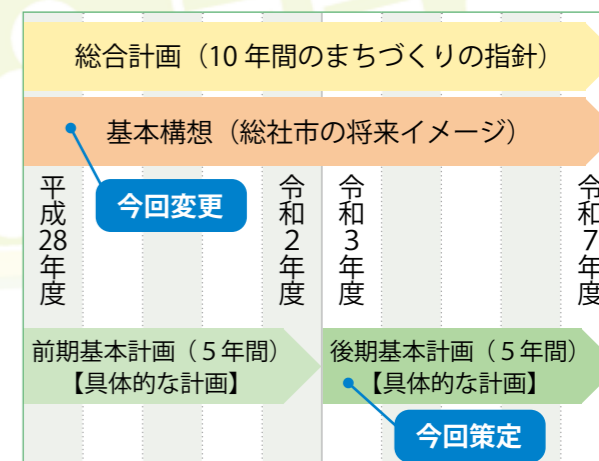
あなたにとって一番やさしいまち “そうじゃ”へ

市は、今後10年間のまちづくりの指針となる「第2次総社市総合計画」を平成27年度に策定。「岡山・倉敷に並ぶ新都心 総社～全国屈指の福祉文化先駆都市～」の実現に向けて、さまざまな施策を実施してきました。

計画策定から5年が経過したため、総合計画に社会・経済情勢の変化や前期基本計画の成果、市民の声などを反映しました。具体的には、基本構想に「目指すべきまちのあり方」を追加するとともに、将来の「人口ビジョン」を上方修正し、まちづくりを進めていく上での「基本目標」の位置付けを変更。また、令和3年度から7年度までの後期基本計画を策定しました。

今後も総社市の発展のために、福祉を基盤とした施策を進めることで人口増加につなげられるよう取り組んでいきます。

問い合わせ 政策調整課 (☎ 8213)



基本構想の変更部分や後期基本計画の詳細な内容は市ホームページでご確認ください

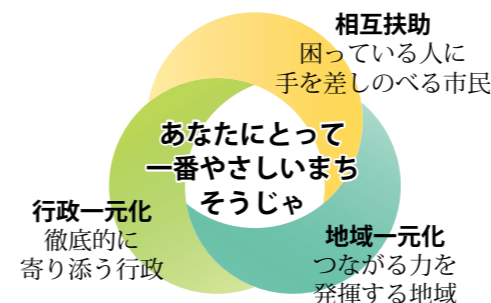


基本構想の主な変更部分

この度、平成27年度に策定した総社市総合計画基本構想の内容を変更しました。新たな項目の追加や目標数値の修正など、変更した内容のうち主な3つを紹介します。

1 目指すべきまちのあり方を設定

これまで子どもや障がい者、高齢者など、社会的に弱い立場の人にとって住みやすいまちづくりに力を入れて取り組んできました。これらの施策を進めることが、全ての人にとって住みやすいまちの実現につながると考え、「あなたにとって一番やさしいまち そうじゃ」を目指すべきまちのあり方として設定。「相互扶助」、「地域一元化」、「行政一元化」の3つの視点を持ち、やさしさが実感できるまちづくりを進めます。



2 人口ビジョンを上方修正

令和7年の目標人口6万9000人を令和2年に達成したため、新たな目標人口を7万5000人に設定。後期基本計画で定めた各分野の数値目標とともに、達成を目指します。

